

## 高齢者が生きてきた時代背景の理解を深化させるための映像を取り入れた学習 ー在宅看護学実習における試みー

<sup>1</sup> 森實詩乃 <sup>1</sup> 田中博子 <sup>2</sup> 眞鍋智仁

<sup>1</sup> 帝京科学大学医療科学部看護学科 <sup>2</sup> 日本放送協会

Education that Incorporates Video to Deepen Understanding of the Historical Background of the Elderly  
ー An endeavor in home care nursing practicum ー

<sup>1</sup> Shino MORIZANE <sup>1</sup> Hiroko TANAKA <sup>2</sup> Tomohito MANABE

### I. はじめに

高齢者看護に関する教育や研究において、高齢者への回想法や生活史聞き取りに関する報告<sup>1) 2) 3)</sup>は散見される。しかし、高齢者が生きてきた時代背景に焦点をあて、日々のケアに活かしている内容について言及した研究は数少ない。原(2008)は、ケア提供者にはそれぞれの人生の歴史に遡って高齢者を理解し、語られる歴史を丁寧に受けとめる臨床的態度が求められ、このような視座や態度の重要性は、老年看護学教育のなかでも強調されていると述べている<sup>1)</sup>。また、小笠原ら(2010)は、過去の背景を活かした看護の実践的知識について、高齢者看護のエキスパートたちへのインタビューによる質的研究で、高齢者の自尊心を保ち出来る限り生き生きとした生活を維持できる術として、高齢者看護のエキスパートたちは【過去の職業や背景を把握することで今を生きる高齢者を理解しやすくなる】【過去の背景とのつながりを推測することで、高齢者に近づくことができ看護が変わる】ことを明らかにしている<sup>4)</sup>。

本学の在宅看護学実習における目標では、訪問看護を通して在宅療養の場には、その家の暮らし方、生き方、家族関係、環境など固有の生活空間があることに気づく、合わせて在宅療養者とその家族がどのように暮らしたいのかを把握する、その実現をめざして、援助課題を評価し、その家らしさやその人らしさを生かした訪問看護過程を展開することを学生に求めている。2週間という実習時間の中で受け持ち療養者についてどの学生も最低2回の訪問で情報収集し、対象理解に努めなくてはならないが、理解を深めるためには、2週間という限られた時間の中では困難な学生も多い。その理由として、高齢者が生きてきた時代背景につ

いて、高齢者との関わりが少なくなった学生にとって、理解しにくく、看護学生となるまでの学習では「歴史」として学習し、史実としての知識を持っていたとしても、そのことを高齢者と関わるうえで、十分に活かしてきてない現実もある。このため学生は、高齢者が生きてきた時代話を共有することは難しく、また過去を思い出してもらえような話題の提供についても限界がある。

団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けてのケアの担い手となる現在の看護学生に、どのように高齢者が生きてきた時代を理解してもらうかは課題である。そこで本学の在宅看護学実習において、高齢者が生きてきた時代背景を理解し、高齢者の過去の背景を知り、ケアに活かすべく方法として、映像を取り入れた学習を試みたので以下に報告する。

### II. 研究方法

#### 1. 対象者

2期生3年次在宅看護学実習を第4クールで履修した学生14名(男子学生1名、女子学生13名)。年齢は20～22歳である。

#### 2. 実施期間

映像の視聴期間は、学生の実習期間である平成27年12月7日～18日。映像サイトの具体的な説明は、12月11日行なわれ、説明会での視聴時間は90分である。

#### 3. 倫理的配慮

本研究で使用する写真や学びに関する発言については該当者から同意を得ている。

#### 4. 方法：在宅看護学実習における映像サイト使用の展開

NHK ディレクターを招き、実習期間 第1週の金曜日学内実習の時間に、映像サイト「認知症・高齢者のために思い出を今に活かす回想法」について [www.nhk.or.jp/archives/kaisou](http://www.nhk.or.jp/archives/kaisou) の説明を受けた。「認知症・高齢者のために思い出を今に活かす回想法」サイトは、トップ画面に「回想法とは」「家庭で利用」「施設で利用」という案内の下に、認知症・高齢者のための回想法のページであることと、日本における放送・テレビの歴史を踏まえた構成で東京放送局時代から現在の日本放送協会に記録が残る音声・画像・映像で構成されている。コンテンツ内容は1940年代～1990年代まで音声放送・映像放送として放送されたものであり、10年区切りでまとめられている。人物名や番組名で検索や選択ができるようになっている。



##### 1) 映像サイトの使用の仕方

- ① 映像を探す。年代と映像の種類（ニュース・くらし・番組）を選ぶ。
- ② 候補が表示される。
- ③ 映像を再生する：認知症のある方や高齢者と一緒に見る場合は、憶えている番組やニュースを選択し再生する。
- ④ 再生した映像が終わると、質問が2～3問表示される。
- ⑤ 表示された質問を例に、映像について思い出したことを語りあう。

1970年（昭和45年）大阪万博 華やかに開幕の映像視聴後の質問例

○大阪万博を思い出しますか。

##### 2) 学生は在宅看護学実習でどのように活用したか

1940年12月8日太平洋戦争開戦日であり、実習

期間中にその日を迎えることになる。NHK ディレクターから、真珠湾攻撃について知っているか質問され、学生からは、真珠湾攻撃は、ハワイの真珠湾に日本が攻撃したこと、「リメンバーパールハーバー」という言葉は聞いたことがあるという反応があった。社会の授業で学習した知識は想起できたが、詳しく説明できなかった。そこで、同行訪問した際、療養者と戦争の話になったとき、その話題に学生が対応できるように、戦争に関するコンテンツの説明を受けた。次に、学生が受け持つ療養者の生年月日や学生が気になる情報に関して、「年齢早見表」を用いて年代を確認し、療養者が生きてきた時代を遡って、当時の日本人の暮らしをそれぞれが自由にサイトで確認した。学生が受け持つ療養者の生活歴・職歴の情報に合わせ、1970年代：昭和の時代の映像を検索し、朝の連続テレビ小説のドラマのシーンを用いて、昭和40年代ころまで説明してもらった。

##### (1) 太平洋戦争開始から昭和初期についての理解のための映像サイト使用の実際

###### 〈太平洋戦争開戦〉

太平洋戦争が始まった12月8日が実習期間中であつたこともあり、学生は、実習施設でiPadを用いて、日本軍が真珠湾攻撃をし、アメリカに宣戦布告した当時の臨時ニュース音声と映像を視聴した。コンテンツは、東京放送局から臨時ニュースとしてラジオで放送されたものであり、1940年代テレビは、まだ普及しておらず、銀座の街頭にてラジオの音声に耳を傾ける老若男女や、自転車を止めてニュースに聞き入る人が映っている当時の映像とラジオ音声を被せてある映像である。コンテンツの映像の画面下には以下のような太平洋戦争に関する説明がある。『日本軍がハワイ真珠湾を攻撃、太平洋戦争が始まった。ラジオは午前7時の臨時ニュースから始まった。アナウンサーは、このニュースを2度繰り返し「今日は重大ニュースがあるかもしれませんからラジオのスイッチは切らないでください」と呼びかけ、夜11時過ぎまで、政府や軍の要人の講演などを続けた。この日から戦時下ラジオ放送は、1347日間にわたり続くことになる。』

映像では、つばのある帽子をかぶりホワイトカラーにネクタイでコートを着ている男性、日本髪で道行きコートを着てショールを羽織った女性がいたりする。自転車を止め、街頭のラジオ放送に耳を傾けている男性の姿から、戦争の話題では、映画やテレビによる東京大空襲や焼け野原の東京の印象

が根強く、日本本土で戦争が行なわれる以前の東京は、モダンで街並みや当時の人達の装いは、「今の時代と大きく違いはない」ことが感想として語られた。



## (2) 昭和・高度成長期に対する学生の反応と実習への活用

### 〈大阪万博・パンダ来日〉

学生は、1990年代生まれの者が殆どである。2016年の現在から遠くない昭和の時代で学生が親しみやすい話題について、検索してみるように説明された。高度経済成長期を象徴するイベントだった1970年代の日本万国博覧会について検索を行なった。日本万国博覧会は1970年代のハイライトニュースであり、「大阪万博 華やかに開幕」のタイトルで紹介されている。岡本太郎の「太陽の塔」や、三波春夫の楽曲「世界の国からこんにちは」は、学生にも馴染みがあった。「太陽の塔」については、映像を見た瞬間、学生たちは「芸術は爆発だの人だ」と反応し、テレビコマーシャルで見た岡本太郎の映像から「太陽の塔」を知り、大阪万博について両親から話を聞いたことがあると言っていた。「世界の国からこんにちは」は、これまで出会った患者や施設利用者と自分たちの祖父母から聞いて知っており、一緒に歌ったことがある学生は、その場で口ずさみ同じグループの学生に「世界の国からこんにちは」を歌って聞かせていた。

1970年代のビッグニュースとして1972年日中国交正常化を記念し、中国から2頭のパンダが日本に贈られることになり、パンダ2頭が上野動物園にやってきた。「カンカン」と「ランラン」の2頭のパンダの初公開は11月5日で、当時も上野公園にはパンダを一目見ようという人たちが押し掛け、その様子が紹介されている。「へえ、こんなにたくさんの人が押し寄せたんだ」と当時のパンダブームに

驚き、「いまの上野動物園にいるパンダは知っているけれど、初代のパンダは、知らない」と言う学生が多く、後の「パンダ外交」の草分けとなっていることも知らなかった。

### 〈その他の学生が関心を示して視聴した映像への反応〉

くらしの映像の中から、戦意高揚の映画主題歌として作られた「リンゴの唄」が流れる映像を視聴し、学生たちは1945年代、敗戦後の廃墟に暮らす人々に希望を与えた音楽として存在することを理解した。「私の祖母はこの唄を歌っている」と自分の祖母が生きてきた時代を垣間見ることができていた。

1950年代のショートカット大流行の映像を視聴した学生は、映画「ローマの休日」で、オードリー・ヘップバーンの髪型が日本の女性に影響を与え、その時代からショートカットが流行していたこと、おしゃれなワンピースに身をまとい街中を歩く女性が存在していたことを知った。学生はこの姿に対して「この時代は想像がつかなかったけど、女性はおしゃれだ」と驚きを見せていた。

## (3) 学生の受け持ち療養者の語りにあわせた映像の活用

### 〈ラッパが合図の豆腐売り〉

学生の受け持ち療養者で、認知症のある方がいた。その方とのコミュニケーションを通して、受け持ち療養者の仕事は豆腐売りをしていたという情報を持っていた。しかし、当時の豆腐店・豆腐売りはどのようにされていたのか想像できないので見てみたいと学生から希望があった。そこで、「ニュース」「くらし」「番組」から検索を試みたところ、豆腐店や豆腐売りの映像はなかった。そのため、ドラマから「豆腐売り」を再検索してみると、ドラマ「コラ!なんばしよっと」(1992年)の一部分で、自転車に乗りラッパを吹きながら、豆腐を売る女性の姿を確認することができた。昭和の時代には、豆腐店やラッパの音を合図に近所までやってくる豆腐売りのところまで両手鍋やボウルをもって、豆腐を買いに行っていたことは日常的に多く見られ、それは子どもの役割でもあったことや、母親から頼まれお遣いで豆腐やこんにゃくなどを買いに行く時代であったことについて、昭和生まれであり、実際豆腐を買いに行った体験のあるNHKディレクターと教員とで補足し説明した。

学生は、ディレクターの説明を受け、実習中、認知症の療養者の語りにあわせて映像の活用を試みた。学生は療養者と一緒に映像をみて、出身地の話

や、その方が仕事をしていた頃のことについて共に回想することができた。その方にとっての思い出を語ってもらいながら、その方がどのように生きてこられたかについて知ることで今を生きる受け持ち療養者についての理解が深まった。

## IV. 考 察

### 1. 在宅看護学実習での活用可能性

在宅看護学実習では、1人の療養者を2週間受け持つ。初回の訪問時より2回目、3回目と回を重ねるごとに療養者と対話する機会は増えていく。学生が、受け持ち療養者にケアを実施する際、その人はどのように人生を歩んできたのか、その中でつくられてきた価値観や人生観を理解することが重要である。

今回、実習期間内に映像を使った学習を試みた結果、学生たちの反応や、実際、映像を使ってケアに結び付けた学生もいたことから、高齢者が生きてきた時代背景を理解するために映像を活用した学習の導入は、高齢者への看護介入の手がかりになること、さらに高齢者が生きてきた時代背景の理解を深める一助となり得る可能性があることが確認できた。実際、その時代に流されたニュースやドラマなどの映像は、その時代を物語る、リアルな状況で映し出される。映像を通して、その時代にタイムスリップしたような感覚が想像の広がりを助け、高齢者の語りの世界に入りこみ、【過去の職業や背景を把握することで今を生きる高齢者を理解しやすくなる】<sup>4)</sup>のではないだろうか。

### 2. ケアの担い手の育成のための映像使用から認知症高齢者へのケアへつなぐ

在宅看護学実習において学生は、認知症高齢者を担当することも多い。昔を思い出し、人と語りあう時に、前頭前野の脳血流が増加することがわかっている。回想法は、昔を思い出すことは、高齢者にとって脳機能の活性化に有用であり、精神状態を安定させ、長く続けることで認知症の進行予防や改善につながる可能性が示唆されている<sup>5)</sup>。映像サイト自体は、“みのがしなつかし 認知症・高齢者に思い出を今に活かす回想法”ページである。前述のように、映像サイトを活用し、認知症のある方たちの生きてきた時代の話を共有できる努力をし、ケアを行っていくことが重要である。

このような映像サイトを用いることで、学生と高齢者の会話の語数が増えていくであろう。認知症のある方の見当識障害に働きかけるときに、今日はいつであるか、今自分がいるところはどこかを含めて、「今を生きる」人としてケアするためには、ケアをする者としてその方の今がどのような人生を歩んできた人であるのか過去と今がどのようにつながっているか理解し、ケアする者として「今を生きる」認知症者を捉えられなければならない。

## V. 今後の課題

映像を活用することは、高齢者が生きてきた時代背景に対する理解が深まる。この報告では、高齢者を中心とした映像を活用した学習の有用性を論じてきたが、在宅看護は、看護の対象を新生児から高齢者である。この映像を活用した学習はあらゆる対象に対して適用できると考えられ、在宅看護学実習で対象に合わせて学生に伝えていくことが課題であろう。

## 引用・参考文献

- 1) 原 祥子：“いま、ここ”で生きる高齢者を理解する方法に関する一考察－ライフストーリーを読み解く視点から－, *日本看護研究学会誌*, 25 (5), 83-92, 2004.
- 2) 原 祥子：老年看護実践におけるライフストーリー・アプローチの可能性, *老年看護学*, 12 (2), 23-37, 2008
- 3) 田高悦子・金川克子他：在宅痴呆性高齢者に対する回想法を取り入れたグループケアプログラムの効果, *老年看護学*, 5 (1) : 96-106 : 2000.
- 4) 小笠原菜里・谷本真理子：高齢者の過去の背景を活かした看護を通して得た実践的知識, *千葉看護学会誌*, 16 (1) : 53-60 : 2010.
- 5) NHK 名作選 みのがしなつかし 認知症・高齢者に思い出を今に活かす回想法：(2016. 1. 25 取得 <http://www.nhk.or.jp/archives/kaisou/about>)
- 6) 野村豊子：Q&A でわかる回想法ハンドブック「よい聴き手」であり続けるために、中央法規，東京，2011, 176-187
- 7) 田高悦子・金川克子他：認知症高齢者に対する回想法の意義と有効性－海外文献－を通して，*老年看護学*, 9 (2) : 56-63 : 2005.